

昭和十九年の情勢

インパール作戦、大陸打通作戦と積極的進攻作戦で態勢の立て直しを図ったが、太平洋に於ける「絶対国防圏」の崩壊を食い止める事は出来なかった。

六月中旬米軍はマリアナ諸島サイパン島に上陸してきた。

此処を基地にしてB29による本土爆撃開始の戦略に拠るものであった。

インパール作戦は失敗し、サイパンの失陥は、政変をもたららし、東条内閣は崩壊したが、次のフィリピン来寇に備える装備は全く整っていないかった。

秋になると、米軍はフィリピンに來寇、同時に沖縄・台湾が爆撃圏内に入り、十一月になると、それまで中国から北九州を爆撃したb29がマリアナ基地から本土空襲を開始した。

本土戦場化が遂に始まってしまった。

都会では「強制疎開」が始まり、亦学童の疎開も始まり、この近辺では法林寺に、都会の学童が疎開してきた。

